

第1回 合同会議

- 1 日時 平成30年5月10日（木） 15時～16時20分
- 2 場所 旭川市立朝日小学校 図書室
- 3 参加者 旭川市立朝日小学校 木下 俊吾, 三浦 一路, 福嶋 顕勝, 櫻井 啓子,
宮腰 唯導
旭川市立知新小学校 増田 展明
旭川市立新町小学校 伊月真由美
旭川市立中央中学校 成田麻友子, 三上 貴也

4 内容

(1) 昨年度の研究内容と今年度の研究内容について

今年度のプロジェクトの研究目的と研究方法, プロジェクトの名称について確認した。

ALPSⅡが今まで蓄積してきた「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の在り方をさらに広めるため, 今年度は帯広市立柏小学校と小樽市立菁園中学校の2校が新たに加わり, 旭川市立知新小学校, 旭川市立新町小学校, 旭川市立中央中学校, 本校と計6校で研究を推進する。他管校との協働研究を進めるにあたって, 会名称も新たに「ALPS-w」(アクティブ・ラーニング・プロジェクト・スタッフワイド)とした。

① 昨年度の研究内容と課題

「平成29年度ALPSⅡ研究報告書」に基づき, 昨年度の研究の成果と課題について確認した。

- 「深い学び」まで達していないと思われる授業があったのは, 指導内容と子供の実態がかい離していたと考えられる。単元をデザインするときは子供の視点に立った, 子ども主体の授業をもっと意識して構想していく。
- 育てたい資質・能力に照らし合わせて, 「振り返り」の目的を明確にし, 内容の吟味, 精査していく必要がある。
- 「見通しや振り返り」の手立てについては, 目的に合った, 様々な方策を試行していく必要がある。



② 今年度の研究内容提案

研究内容1 子供が主体の学習「単元デザイン」

子供は自分で何をどのようにゴールをイメージするのか, 「何のために」「何を」学ぶかを子供自身がわかっていることが重要である。その際, 問題を解決するための土台となる「知識・技能の習得」と, 問題を解決, 解決策を創造するための「知識・技能の活用」を意図的に計画し, 習得と活用を対として単元づくりをしていくことが重要であると考えた。

昨年度までの思考アクティブ化シートAに基づいた単元構想は、実は「習得-活用」のまとまりが必ず包括されており、昨年度の「単元づくり」を継続的に研究することになる。

「子供の獲得知」がつながりあい、子供が新たな知を獲得、形成、成長させていくように教師が柔軟に、他教科や領域、行事、地域、日常生活などをつなげた、子供の思考の流れに沿った単元をデザインすることを重視した。

研究内容2 子供が主体の学習「子供自ら学びをマネジメント」

「主体的・対話的で深い学び」の学習を実現するためには、子供自身が「何のために」「何を」学ぶのかを自覚していることが不可欠である。そのためには、子供が学習の見通しを立てたり、学習をしたことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れることが有効である。昨年度、朝日小で開発したパフォーマンス・シートに限らず、各学校で子供自らが学びをマネジメントできる手立てを考えていく。

道徳科のような単元イメージがもちづらい教科・領域があるとの意見があった。

「単元」というイメージではなく、「まとまり」というイメージで学びを総括的にとらえていくとよいのかもしれない。今後、話し合いを重ね、共通理解を図っていく。



③ その他

- ・ 各学校で1授業以上公開し、互いに研鑽を積んでいく。
- ・ 用語の整理と用語の押さえ、また「深い学び」の子供の姿について今後共通理解を図る。

5 今年度のスケジュール

研究協議会や研修会等、6校合同会議、42校合同会議を年14回程度実施し、研究情報の共有化及び教員の指導力向上を図る。各学校の授業公開日は、分かり次第連絡する。

6 木下校長より

- 5月17日は今の議論の整理を。昨年度の研究を十分に生かす。
- 道徳は今回の討議のイメージで。単元で子どもたちを変えていく。
- 授業記録（可能であれば前時も）を取り、授業反省に生かす。
- 指導案を作ることにこれ以上時間をかけない。授業の見せ方も大事。
- 理科の授業は、中学校の先生の立場からも意見をもらう。
- 知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう人間性の育成に、習得・活用を組み合わせる。